

もっと知ろう “陶”

23、二人の行者様

陶には丸彫り石像の行者様が猿爪東町と水上滝坂にいらっしゃいます。

行者様とは、奈良県の吉野山金峰山蔵王権現のもとで、厳寒の滝に打たれる修行、夜を徹して何十里も歩く歩行修行、千丈の山を登る山岳修行、真夏の火わたり修行等厳しい修行を通して、私心を捨て、悟りをひらく修験者です。(山伏ともいう)

猿爪の行者様が野天で、はっきり姿かたちが見えるので、一見して行者様と判るが、水上の行者様は石祠に入っているのでよく見ないと行者様とは判らない。ただし、水上の行者様(ご坊様とも呼ばれる)は、人懐っこくあまり近寄ると、その人に負ぶさるとかで、遠慮して遠くからお詣りするのが習わしだそうです。

「すえまちむかしばなし」(小木曾茂博氏著)によると、厳しい修行を終えて陶に帰った行者様は、病気で苦しんでいる人がいると聞けばすぐにとんで行き、祈祷をし、手厚い看護をし、行者にんにくなども分け与えるという功德をつんだという。

お世話になった行者様が亡くなってからも、病氣平癒の神様として石仏の行者様を建立し崇めたのであろう。

二つとも江戸末期 1800 年頃の作といわれています。無医村の時代ですから、病氣平癒は神仏に頼る素朴な信仰心が伺われます。

○「陶町の石造物」(上手玉喜著)によると

・東町 先達 景山助八 ほか 11 名を記銘

景山助八を先達に猿爪村を中心に行者講を組み、信心し、建立したと思われます。

・水上 水上大川曾木村講中の記銘

水上、大川、曾木村の三村で行者講を組み、信心し、建立したと思われます。

(行者講: 金峰山に参詣する団体。代表が参詣し、残った人は地元で無事帰還を祈願した。)



東町の行者様



滝坂の行者様